

野菜の需給・価格動向レポート(平成25年9月17日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	8月の価格情報			9月の価格情報		生育及び価格の9月の見通し (台風18号の影響は加味していません。)		
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	下旬	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	上旬			
葉 茎 菜	キャベツ 	74.19	75	84	74.19	85	・入荷見込量: 14,760 (100) ・主産地: 群馬 (79)、岩手 (12)、北海道 (4) ・群馬産は、最近の曇雨天の影響でやや少なめの出荷量となっていたものの、生育は順調で品質も良く、今後は平年並みの出荷の見込み。岩手産は、8月の降雨の影響で、根の張りが悪く小玉傾向で、今後は少なめの出荷の見込み。北海道産は、少なめの出荷となっているが、今後はやや出荷量が増加する見込み。 ・群馬産の出荷が順調と見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
		88.91	77	87	88.91	86		
	ねぎ (関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ) 	273.33	385	275	273.33	311	・入荷見込数量: 4,350t (100) ・主産地: 青森 (33)、北海道 (17)、山形 (10)、茨城 (10)、秋田 (9)、輸入 (5)、岩手 (4) ・青森産は、品質も良く太もの中心の出荷となっているものの、9月17日の週は稲刈り作業との重複により、出荷量が減少する見込み。北海道産は、降雨の影響で生育が遅れ、少なめの出荷となっている。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		487.13	440	492	487.13	455		
	はくさい 	78.06	99	98	78.06	97	・入荷見込量: 7,820t (100) ・主産地: 長野 (91) ・長野産は、最近の低温と降雨の影響で生育停滞がみられるものの、作付面積の増加している時期の出荷になることから、今後は出荷量が増加する見込み。 ・長野産の出荷量が増加すると見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
		88.72	102	97	88.72	101		
	ほうれんそう 	583.95	638	727	583.95	767	・入荷見込量: 860t (100) ・主産地: 群馬 (31)、栃木 (28)、茨城 (14)、岩手 (8) ・群馬産は、気温の低下により高冷地での生育が停滞し、少なめの出荷となっているものの、下旬には、平坦地の出荷が開始となり、平年並みの出荷の見込み。栃木産は、降雨等により生育が回復し、平年並みの出荷の見込み。茨城産は、順調な出荷の見込み。岩手産は、少なめの出荷の見込み。 ・群馬産、栃木産及び茨城産の出荷が順調と見込まれることから、平年を上回っている価格は、平年並みに近づく見込み。	
		670.86	637	755	670.86	821		
	レタス (結球) 	158.27	101	127	158.27	118	・入荷見込量: 9,550t (100) ・主産地: 長野 (83)、群馬 (11) ・長野産は、生育初期の少雨の影響で根の張りが悪く小玉傾向となっている。今後は、作付面積の増加している時期の出荷になり、平年並みの出荷の見込み。群馬産は、平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
		152.57	99	133	152.57	119		
たまねぎ 	84.85	101	96	84.85	102	・入荷見込量: 10,350t (98) ・主産地: 北海道 (93)、輸入 (5) ・北海道産は、最近の降雨の影響で収穫作業が遅れていたが、今は急ピッチで収穫作業を進めている。夏場の少雨の影響により小玉傾向で、平年より少なめの出荷となる見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。		
	84.85	115	111	84.85	119			
果 菜	きゅうり 	210.69	175	374	210.69	341	・入荷見込量: 8,090t (95) ・主産地: 福島 (29)、岩手 (12)、埼玉 (11)、群馬 (11)、茨城 (9)、秋田 (8)、宮城 (6) ・福島産及び岩手産は、気温の低下により肥大が悪く、少なめの出荷となり、今後は少なめの出荷の見込み。埼玉産及び群馬産は、定植が高温の影響で遅れていたことから、少なめの出荷となっているが、今後増加する見込み。 ・福島産及び岩手産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		221.71	188	342	221.71	374		
	トマト (大玉) 	229.51	224	282	229.51	353	・入荷見込量: 8,720t (98) ・主産地: 青森 (18)、千葉 (18)、福島 (16)、茨城 (12)、北海道 (11)、群馬 (9) ・青森産及び福島産は、気温の低下とともに、裂果が散見されるとともに着色や肥大が悪く、少なめの出荷が続く見込み。千葉産は、高温の影響で定植が遅れていたが、出荷開始を迎え順調な出荷となり、平年より多めの出荷となっている。 ・青森産及び福島産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		271.33	261	316	271.33	365		
	なす 	209.55	140	240	209.55	304	・入荷見込量: 4,420t (100) ・主産地: 栃木 (30)、群馬 (25)、茨城 (22)、埼玉 (8) ・栃木産は、成り疲れと病害の発生による品質の低下がみられ、少なめの出荷となり、今後は少なめの出荷の見込み。群馬産は、曇天と低温の影響で肥大が進まず少なめの出荷となり、今後は少なめの出荷となる見込み。茨城産は、ピークを過ぎ、減少傾向の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。	
		221.72	152	217	221.72	318		
	ピーマン 	263.58	213	250	263.58	387	・入荷見込量: 2,370 (98) ・主産地: 茨城 (38)、岩手 (37)、福島 (13)、青森 (9) ・茨城産は、順調な生育となっているものの、下旬から本格的な出荷となる見込み。岩手産は、花落ちの影響で少なめの出荷となっており、今後は少なめの出荷の見込み。福島産も、少なめの出荷の見込み。 ・岩手産及び福島産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。 (※トピック欄参照)	
		282.16	283	321	282.16	418		
	根 菜	だいこん 	94.6	98	98	94.6	112	・入荷見込量: 10,760t (97) ・主産地: 北海道 (63)、青森 (30)、岩手 (5) ・北海道産は、長雨の影響による病害等の発生と、収穫作業の遅れ等から少なめの出荷となっている。今後は生育が回復し増加が見込まれるものの、平年には届かない見込み。青森産は、気温の低下とともに生育が回復し、平年並みの出荷の見込み。 ・北海道産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。
			100.39	103	100	100.39	112	
にんじん 		123.08	149	130	123.08	121	・入荷見込量: 6,660t (96) ・主産地: 北海道 (96)、輸入 (3) ・北海道産は、曇雨天の影響により、細ものが中心の出荷となっているものの、収穫が遅れていたものと通常の出荷が重複したことから、多めの出荷となっている。今後は、平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。	
123.11	150	135	123.11	125				

種類	8月の価格情報			9月の価格情報		生育及び価格の9月の見通し (台風18号の影響は加味していません。)
	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価格	下旬	(参考) 保証基準額の算定の基となる平均価格	旬別平均販売価格	
いも	242.66	350	300	242.66	278	・干葉産及び宮崎産は、高温と少雨の影響により小玉傾向で少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	220.11	261	231	220.11	352	
ばれいしょ	101.61	174	143	101.61	134	・北海道産は、急ピッチで収穫作業を進めているものの、全体的に小玉傾向であることから、出荷量は、平年には届かない見込み。 ・少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
	101.61	179	157	101.61	139	

注: 1 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)
2 旬別平均販売価格の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景ありは保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)
3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック
4 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。さといもは、前年実績。
5 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。
6 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。
7 平成25年8月20日版より、平均価格と旬別平均販売価格を一部の品目につき細分化し、ねぎについては関東は白ねぎ、近畿は青ねぎ、レタスについてはレタス(結球)、トマトについてはトマト(大玉)の数値を用いている。

2 野菜の需要動向

年	過去5か年平均		平成24年		平成25年		主要野菜の小売価格(東京都区部) (単位:円/kg)							
	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	購入金額(円)	購入数量(g)	前年比	購入金額(円)	前年比	キャベツ		レタス			
									過去5か年平均	平成25年	5か年比(%)	過去5か年平均	平成25年	5か年比(%)
1月	4,271	1,557	4,189	1,634	4,243	101	1,669	102	187	203	109	579	904	156
2月	4,447	1,610	4,499	1,735	4,553	101	1,652	95	203	204	100	555	722	130
3月	4,797	1,765	4,584	1,851	4,961	108	1,769	96	207	181	88	512	434	85
4月	4,723	1,834	4,620	1,904	5,019	109	1,809	95	248	207	83	466	426	91
5月	5,055	1,905	4,945	1,948	5,257	106	1,861	96	175	133	76	369	318	86
6月	5,048	1,881	5,103	1,875	5,249	103	1,897	101	140	137	98	338	274	81
7月	4,421	1,691	4,386	1,675	4,456	102	1,783	106	149	173	116	308	385	125
8月	4,318	1,689	4,245	1,618		0		0	138	141	102	414	371	90
9月	4,839	1,783	4,916	1,703		0		0	142		0	526		0
10月	5,280	1,840	5,242	1,761		0		0	150		0	467		0
11月	5,030	1,630	5,039	1,602		0		0	155		0	385		0
12月	5,140	1,837	5,169	1,888		0		0	148		0	495		0

3 野菜の輸入動向

区分	平成23年		平成24年		平成25年1~7月		平成25年7月	
	前年比	前年比	前年比	前年比	前年同期比	前年同月比		
生鮮野菜	915,091	112	946,931	103	500,280	79	62,770	81
加工野菜	1,803,510	107	1,909,671	106	1,081,378	98	169,335	102
野菜合計	2,718,600	109	2,856,601	105	1,581,657	91	232,105	95
うち中国産野菜合計	1,409,984	110	1,458,418	103	783,174	91	120,728	97
中国産シェア	52		51		50		52	

4 トピック - ピーマンの需給動向 -

今年の7月からのピーマン(パプリカ等を含む。)の入荷量は、7月上旬から8月上旬までは平年より少なめに推移し、8月中下旬は入荷量が回復傾向となっており、平年並みとなったが、9月上旬は少なめとなった。このため、価格は7月から8月上旬までは高く、8月中下旬は平年並みとなったものの、9月上旬は高く、直近10年では、この時期の最高値となっている。

このように総じて入荷量が平年に比べて減少したのは、6月に主産地の茨城等で日照量が少なかったことや、7月から8月上旬にかけて、主産地の岩手で日照量が少なかったことによるものと思われる。なお、9月上旬の減少は、上述のように主産地の岩手で日照量が少なかったことの影響で、この時期の出荷のものに花落ちがみられたこと等によると思われる。

今後は、茨城産は順調な生育であるものの、本格的な出荷は下旬以降となり、岩手産等は引き続き少なめに推移することから、価格は当面高めに推移するものと思われる。

ピーマンは、今が旬の時期であり、和洋中の様々な料理に合い、食卓の彩りとして欠かせない野菜でもあるが、ピーマンの年間の購入数量を見ると、指定野菜の果菜類の中では最も購入数量が少ないものの、直近10年間では増加傾向となっている。

一方、国内供給量の推移を見ると、国内の出荷量はこのところ横ばい傾向であるものの、パプリカ等のジャンボピーマンの輸入量は増加傾向にあり、国内生産も拡大傾向にある。ピーマンの購入数量の増加傾向には、パプリカ等の需要増が寄与していることが考えられる。

ピーマンの入荷量と卸売価格の推移(7~9月上旬 東京都中央卸売市場)

資料: 青果物情報センター

果菜類の1人当たりの年間購入数量の推移

資料: 総務省統計局「家計調査年報」
注: ()内は、平成24年の1人当たりの購入数量

平成24年 ピーマンの月別入荷量の推移(東京都中央卸売市場)

資料: 平成24年東京都中央卸売市場年報

ピーマンの国内供給量の推移

資料: 農林水産省「野菜生産出荷統計」、ベジ探(原資料)財務省「貿易統計」